

年次研修者振り返り

2年次 国語科 塚越 麻友美

1年次は計画した通りの授業を進行するだけで精一杯であった。もちろん学習指導案に沿って50分間の授業を行うことも、必要不可欠な力ではあるが、そのことに意識が向かいすぎて、臨機応変な対応ができないことに課題を感じていた。

今年度は、以上の反省点を踏まえて日々の授業を構成した。生徒の発言を広く受け止めることで、生徒が相手に「伝えたい」と思えるような対応を心掛けた。たとえ授業の本筋から外れてしまうことがあったとしても、生徒のもつ興味関心や疑問に真摯に向き合うように努めた。また、1時間の授業に指導事項を詰め込みすぎないように注意を払った。その結果、生徒の定着度合いに応じて例示を増やしたり、演習時間を設けたりすることが可能になった。

様々な教材に触れ、授業を構想していく中で自分自身の勉強不足、準備不足を痛感する一年間でもあった。いわゆる文系のテーマを扱った評論文については、余裕をもって追加の資料を用意したり、補足説明を加えたりすることで生徒の興味関心を引き出すよう尽力したつもりである。一方で、科学や近代化など抽象的かつ自分自身あまり馴染みのないテーマの教材では、教科書の内容に終始してしまい、生徒の知的好奇心を掻き立てることができなかった。忙しい日々ではあるが、生徒の手本となるように自分自身が様々なことに興味関心をもって学び続けること、特に新書や一般書を読んだり、社会情勢や世の中の動きに敏感になったり、「国語」に限定することなく様々な情報を収集するように努めることが何より重要であると考えた。3年次には校内での授業参観にとどまらず、外部の研修や模範授業等にも積極的に参加し、自己研鑽に励みたい。

今年度も多くの先生から懇切丁寧なご指導をいただきました。また、研究部において同年代の先生方と様々に議論を重ねられたことも良き学びとなりました。深く感謝申し上げます。